

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079500221
法人名	有限会社 元気の里
事業所名	グループホーム 元気の里
所在地	福岡県糸田町下糸田2475
自己評価作成日	平成25年9月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>美味しい食事とのどかな田園風景、家庭的な雰囲気</p>
--------------------------------

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>代表者の地元であることから、近隣住民や消防団、商店等、地域との根付いた関係性が築かれている。毎年、地区主催の納涼大会に敷地を提供し、また、正月の門松作りは地域の有志の方々の協力を得ている。今年3月には、リビングのピアノを活用し、プロの演奏家によるコンサートも開催されており、地域の方とともに賑やかな時間を過ごす機会も多い。日常の暮らしは、特に「食」の充実への取り組みが大きな特徴であり、自然環境を活かした食材や、新鮮な魚等を用い、調理法にも工夫が凝らされ、入居者、家族にも好評を得ている。ゆとりある生活環境と懐の深いかかわりの中で、今後も、地域の拠点としての活動展開や、個別性ある支援の追求が大いに期待できる事業所である。</p>
--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年9月18日	評価結果確定日	平成25年11月20日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員自らの手で作成し、朝晩の申し送り時に復唱している	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念は、職員の意見を集約し、作成されている。申し送りの際の確認や、日常の関わりを通じて共有を図り、実践に結び付けるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	こども110番の家として、通学児童の避難先としての役割を担っている。またトイレなども貸し出している。先日は音楽家を招きピアノコンサートも実施した	毎年、地区主催の納涼祭に敷地を提供し、また、地域有志の方により、ホームの門松づくりが行われる等、日頃の関係性がうかがえるエピソードも多い。今年は、地域の方にも案内を行い、プロのジャズピアニストによるコンサートが、ホームにて盛況に開催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症周知についての活動は現在行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度の推進会議の場において、町の福祉課や民生委員、区長、包括支援センターの方々より助言を求めている	運営推進会議は、区長、民生委員、町役場担当者、地域包括支援センター職員の参加を得て、定期開催されており、入居者の方々が参加する機会も多い。運営状況や困難事例への対応について、情報共有や意見交換を行いながら、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議によって定期的に連絡を取り、また何かあれば助言などを求めている	運営推進会議には、町役場担当者、及び地域包括支援センター職員の参加を得ている。不明な点や困難事例への対応について、アドバイスを求めながら、顔の見える関係性の中で、日頃から連携を図っている。ケースワーカーの方とも連携し、情報共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員のミーティングの席において身体拘束についての研修を行った。また、玄関は夜間防犯上施錠する以外は解放している	ミーティング等にて、職員の意識を高めながら、共有認識を図るよう取り組んでいる。玄関の施錠は行なわれていない。言葉や対応による抑制への意識や、服薬による副作用にも医療関係者との情報共有や意見交換を行い、よりよいケアを検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について職員ミーティングにおいて研修をおこなった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状ではそれらの制度を活用される利用者がおられないので取り組んでいない	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している方はいないが、運営推進会議の中で、町役場担当者による研修会が実施される等、情報提供にも取り組んでいる。関係機関との連携を図りながら、必要性を検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分な説明を行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を求める張り紙と、意見箱を置き要望を求めている。もちろん口頭での要望もうかがっている	意見箱の設置や公的機関の相談窓口を掲示している。家族との1泊旅行を企画し、コミュニケーションを深める取り組みを行ったり、個人記録の開示等を積極的に行なっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のミーティングの席において個々の職員より意見を求める時間を設けている	夜勤者以外、全員参加を基本とするミーティングを実施している。職員意見の収集や、活発な意見交換が行われており、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員に対しヒアリングを行い、意見を聞いている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	実行できている	職員の採用にあたり、定年制は設けているが、人柄や人間性を重要視し、年齢や性別による排除は行っていない。職員個々の状況にも配慮し、勤務形態や時間帯に配慮する等、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	個々の職員の常識に任せている。人権を侵害するような行為には目を配っている	認知症ケアや高齢者虐待防止等について、内部研修を実施し、人権尊重への意識を高めている。時には、運営推進会議の中で、行政担当者による権利擁護に関する研修も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の職員に対し研修を受けて貰ったりしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などの懇親会などへ参加している		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、ヒアリングを行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、ご家族よりも要望等をヒアリングしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用については検討した例はない		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々心がけている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信などで現状報告し、また来苑された際にはお話をさせてもらい、共に支え合う意識を高めている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各利用者の人生の背景を聞き出し、関連した情報があれば話を振るなどして記憶の喚起に勤めている	通い慣れた美容室への送迎や、自宅までのドライブを支援している。また、お盆や正月を家族と過ごすことや、家族の宿泊にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置など、配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までそのような例はない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り努めている	入居時に、これまでの生活状況やライフスタイルについて、情報収集を行っている。特に、夜間記録が充実しており、職員との馴染みの関係性の中で、入居者の言葉等の主観的情報についても記録に残し、職員間で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等からヒアリングし、把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中から読みとっている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や本人からは特に要望が出ず、計画作成者が推し量って作成している	日々の記録は充実してきており、支援経過記録は詳細に記録されている。日常の中で見出された言葉や仕草等から、本人の意向を推し測り、計画への反映に努めている。毎月のモニタリングを実施し、現状の確認や再検討を行っている。毎月、留意事項を文書化し、職員に示している。	様々な視点から意識や理解を深めながら、職員個々が、アセスメントや計画作成、モニタリング等に能動的に関わり、本人本位の視点や、より良いケアについて協議を行い、日々の実践に活かしていくことが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りノートにより情報を共有し、計画作成者はそれをまとめたものを参考に計画を立てている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に取り組んでいない		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特に取り組んでいない		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に往診に来て下さる医院をかかりつけにしているが、本人や家族からの希望があれば柔軟に対応している	入居時に、かかりつけ医について確認を行い、家族との連携も図りながら、受診を支援している。また、福岡県認知症医療センターの指定を受ける医療機関との連携を密にし、事例検討会等にも参加している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は一名であるが、介護職員と共に業務にあたり、情報の共有や管理者・ケアマネへの意見などによって受診や看護の適切化に貢献している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院側に話し合いの場を設けていただき情報の共有に努めた。日常的な関係作りは行っていない		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	折々の機会をみてご家族と話し合い、その時に備えられるようにしている	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明を行い、意向を確認している。状況の変化に伴い、家族や医師を交えた話し合いを行い、同意書を作成している。これまでに看取りを経験している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行っている	理事長は、これまでに地域の消防団長を務め、ケアマネジャーが団員として参加しており、分団も近接している。火災や地震を想定した訓練を行い、年1回は消防署の指導を受けている。年度内にスプリンクラーが設置予定となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々努めている	排泄ケアや入浴時の対応には特に留意し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。個人のペースや生活習慣の尊重に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人からの意見はなるべく尊重している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望があればそのような支援をしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体温調節の妨げにならないよう注意を払いながら各利用者の自主性にお任せしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食器の片付けなどを一緒にして頂いている	夏季以外は7分づき米とし、近所の鮮魚店や地元野菜の利用し、食事を提供している。正月や敬老会等の特別食では、「元気の里料亭」が本領を發揮し、お節重や松花堂弁当が提供される。学生ボランティアにより手作りされた個別のランチョンマットが用意され、職員とともに食卓を囲んでいる。食後の余韻も共に味わう姿があり、それぞれの方のペースを尊重しながら、ゆっくりとした食事風景があった。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をつけ、確保できているか確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医などの指導もうけながら実行している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導など行い、おむつ使用は可能な限り行わないようにしている	水分摂取量や排泄状況をチェックし、定期及び個別のリズムに合わせて、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。ストーマやバルーンカテーテルを装着されている方へのケアにも対応されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便などの記録をつけ、便秘が長期化しないようお薬なども用意している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	残念ながら時間を決めて入浴して頂いている	基本的な入浴スケジュールを設定し、希望や状況に応じて、シャワー浴や下半身浴、清拭等を含めた対応を行っている。時には、薔薇や柚子、八朔を湯船に浮かべ、季節感ある入浴支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温などに注意を払い、快眠を支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を職員がいつでも見れる場所に置き、目的や副作用などが分かるようにしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物、洗濯ものたたみなどしていただいている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人からの希望がない。希望があればできる限り対応したい	季節に合わせて、周辺の草木や田園風景を眺めながら、散歩に出かけている。また、近隣の代表者宅での花見をはじめ、季節ごとの花見に出かけたり、広い駐車場で食事会等、戸外に出掛ける機会を確保している。喫茶店に出かけた際には、ミニサイズに変更してもらう等、店主の方による協力を得ている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は行っていただいている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話など、対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々清掃を怠らず、快適な環境が出来ていると思う。	リビングの窓は大きくとられ、明るく開放感があり、周囲の景色を眺めながら過ごすことが出来る。床暖房が設置され、ソファや食卓では、気の合う方同士の間で会議も行なわれている。ピアノが置かれ、コンサートが開催されたり、廊下も広く、ゆとりある室内空間は、全体的に落ち着いた生活感と清潔感がある場所となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に取り組んではない		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にご協力を仰ぎ、私物や馴染みの家具などを持ってきていただいている	居室には、鏡台や筆筒等の馴染みの家具やテレビが持ち込まれており、家族の写真が掲示されるなど、居心地の良さや安心できる環境作りへの配慮が行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住環境コーディネーターを持った設計士による建物であり、手すりやスペースの確保など、配慮がなされている		